

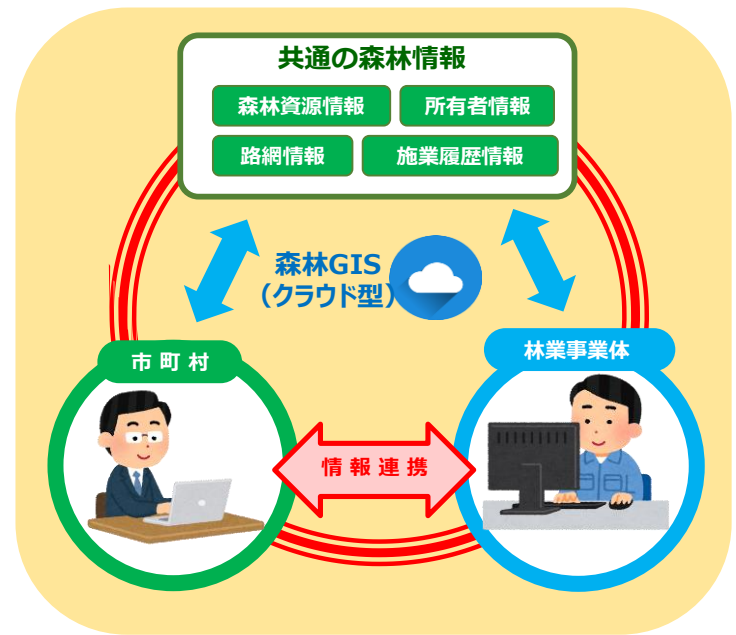


市町村と林業事業者の業務をICT技術でバックアップ。森林情報のすべてが見える。

森林ICTプラットフォームとは

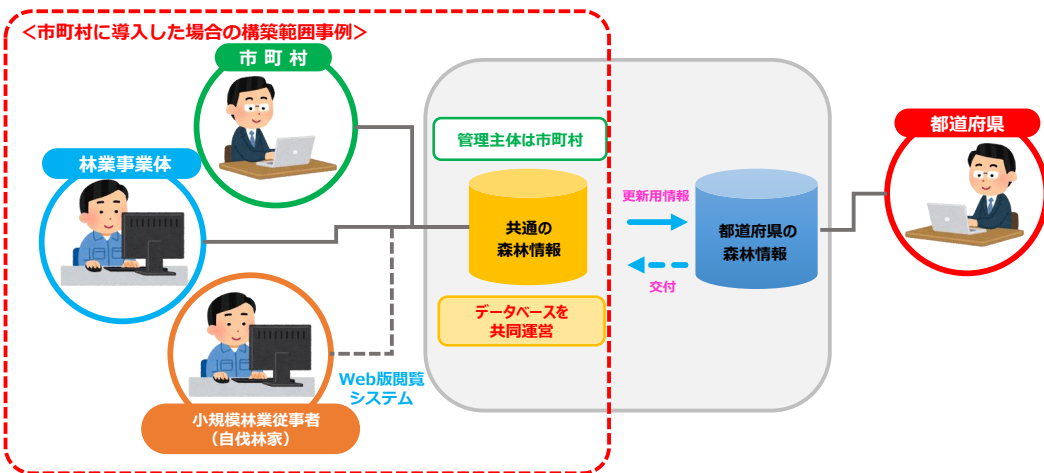
森林ICTプラットフォームとは、地域の森林整備や林業振興において不可欠な情報をクラウド技術を採用することで、森林管理を担う「市町村」と「林業事業者」が一体となって運用できる仕組みです。

総務省のICTまち・ひと・しごと創生推進事業の成果事例「真庭モデル」として開発され、地域活性化への効果を実証されているとともに、林野庁が推奨する「森林クラウドシステム標準仕様」を実装し、全国への普及展開が進んでいます。

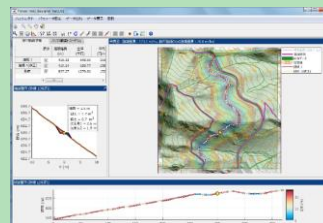


森林ICTプラットフォームのユーザー

森林ICTプラットフォームは、クラウド技術を採用することで、地域の森林整備に係わる、市町村、都道府県、林業事業者(自伐林家等小規模林業従事者を含む)などが共通の森林情報を活用できる仕組みです。これまでユーザーごとにバラバラに管理されていた情報が一元化されることで、森林情報の共有や情報利用の効率化・高度化が実現でき、森林資源の管理に留まらず、災害対策や獣害対策など多岐にわたる効果を発揮できます。

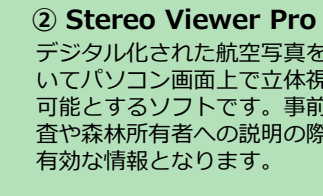


森林ICTプラットフォームの周辺ツールの例



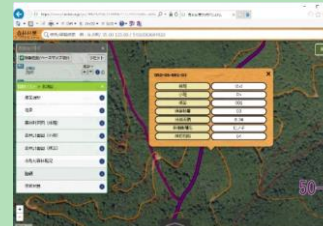
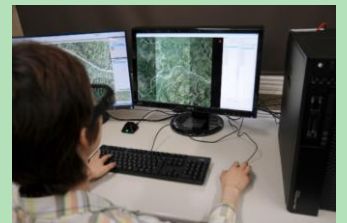
① 路網設計支援ソフト

レーザ計測等で得られた精密な地形データを活かして、森林作業道や林道などの林業用路網の自動設計を行い、ユーザーの線形作成・コスト計算等を支援します。



② Stereo Viewer Pro

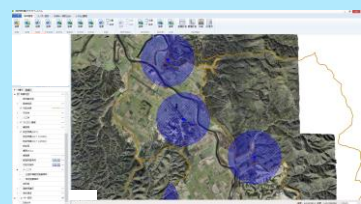
デジタル化された航空写真を用いてパソコン画面上で立体視を可能とするソフトです。事前調査や森林所有者への説明の際に有効な情報となります。



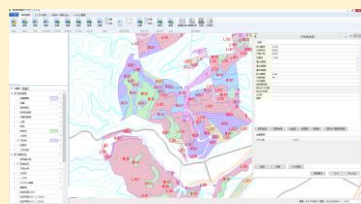
③ Web版簡易閲覧システム

自伐林家など小規模林業従事者向けの簡易なGISツール。自治体等が整備した最新の森林資源情報をWebブラウザ上で閲覧できます。

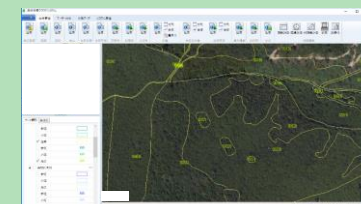
地域の森林管理の特性に応じたカスタマイズ事例



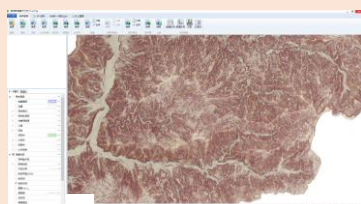
事例① 希少種情報 (北海道内自治体での例)
自治体で把握したオジロワシ等の営巣範囲の情報を管理し、地域の林業事業者と情報共有することで希少動植物を保全します。



事例② 天然林管理 (北海道内自治体での例)
北海道では広葉樹の天然林施業も多い地域です。付加価値の高い特殊材用の資源情報を管理することで、大幅なコストダウンを図りました。

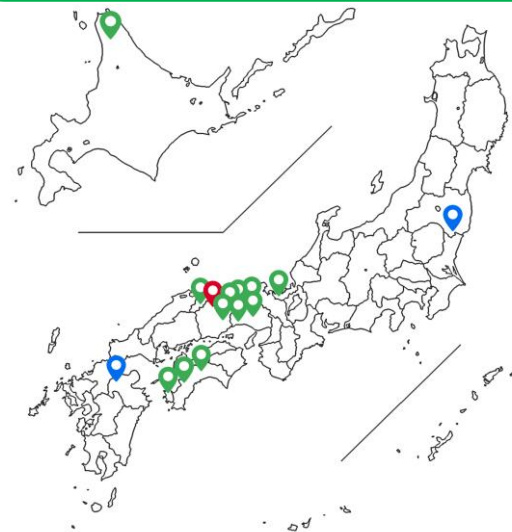


事例③ 林相区分 (福井県内自治体での例)
森林計画図の精度が十分でないエリアについては航空写真を判読することで市町村独自の森林管理レイヤを構築します。より精度の高い施業計画の作成が可能となります。



事例④ 微地形図 (鳥取県内自治体での例)
精密な地形データを活用して微地形を表現する手法の一つのCS立体図を作成しました。等高線の情報と比較してもより現実に近い地形情報を読み取ることができます。

森林ICTプラットフォームの普及状況



動作環境

O S : Windows7 / 8.1 / 10
CPU : intel Core i シリーズ(推奨)
メモリ : 4GB以上 (推奨)
その他 : インターネット接続環境

製品・サービスについてのお問合せは



☎0436 (24) 2117 ✉sales@as-locus.jp
<http://www.as-locus.jp/>